



1941年12月8日、真珠湾攻撃の様子

かのや Kanoyaの 取扱説明書

鹿屋のギモンにお答えする



戦後80年シリーズ① 鹿屋会談とは？

鹿屋と太平洋戦争の 深い関わりを示す ⑤つの特徴

- 1 鹿屋会談
- 2 特攻戦死者が最多
- 3 第五航空艦隊司令部で
特攻作戦を指揮
- 4 人間爆弾「桜花」の出撃
おつか
- 5 終戦後9月に進駐軍が
金浜海岸上陸
かねはま

昭和20年8月15日、先の大戦が終りを迎えてから、今年はいよいよ80年の節目を迎えます。本市には戦争末期、日本で最も多くの特攻隊が出撃するなど特攻作戦の中心地としての歴史があることから、戦争の歴史を後世に語り継ぎ平和の大切さを発信していきます。

市では、この節目の年に戦争の記憶を風化させることのないように様々な事業を行います。ここでは、本市と戦争の深い関わりがあったことを示す5つの特徴を全4回のシリーズでお伝えします。

真珠湾での攻撃作戦を考えるように山本五十六司令長官から大西瀧治郎参謀長に手紙がありました。そこで昭和16年2月に大西参謀長が志布志湾に来ていた源田實少佐を呼び寄せ、海軍航空隊鹿屋基地内で真珠湾攻撃作戦の研究を指示しました。この作戦会議が後に「鹿屋会談」と呼ばれ、これが鹿屋が「戦争が始まった場所」といわれる所以です。

実際に太平洋戦争開戦のきっかけとなった真珠湾攻撃が行われたのは同年12月8日。作戦立案からわずか数か月で決行され、その数か月間の訓練は錦江湾など鹿屋基地周辺の海域で行われました。超低空飛行や魚雷を発射する高度な操縦技術が求められる訓練は苛烈を極めたとされています。

鹿屋会談：真珠湾攻撃作戦を検討

鹿屋会談が行われたのは1ビル

「1ビル」は、海軍航空隊鹿屋基地内にあった主要な建物。近年まで海上自衛隊鹿屋航空基地内に残っていましたが、施設の老朽化のため、平成27年に取り壊されました。現在はレリーフなどの一部が残されています。



8 9 3 - 8 5 0 1

POST CARD

鹿屋市共栄町20-1
鹿屋市役所 政策推進課
広報KANOKYA「読者のひろば」係 行

85円切手をお貼りください

お名前／ふりがな

電話番号

ペンネーム ※未記入の場合、イニシャルで掲載します

年齢／性別

ご住所 □□□-□□□□

プレゼント

クイズの答え

要・不要

男・女
歳
○ ○

皆さんからの メッセージを募集

広報誌への感想のほか、市へのご意見など多くの情報を、郵送又は二次元コードのご意見フォームからお寄せください。

ご意見の中から抽選で特産品等をプレゼントします。たくさんのご応募お待ちしております！

※掲載時に原稿の一部を手直します場合もあります。



▲ご意見フォーム

※今月号から、電子でも応募できます。